

天文学とプラネタリウム

第72回



今月のお題

ホンモノの魅力



秋に向けて新作の天文グッズを妄想中…。

街の中に天文学の魅力に触れる場を持ち込むのと同時に、現場に行って本物の魅力に触れる機会も作っていききたい今日この頃。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 国立清華大学)

たたきつけるように降る冷たい雨に、容赦なく体温を奪っていく風。そんな厳しい状況にもめげることなく、何百人という人が長蛇の列を作る中に、私たちも参加してきました。静岡県の清水港で行われた地球深部探査船「ちきゅう」の一般公開です。

独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の広報の方から、「いまちょうど公開しているよ～」と教えていただいて、話の種に1度くらい見ておこうかな？と東京都三鷹市から車を走らせること3時間弱。途中には雪が降っているところもあったほどの厳しい寒さにも関わらず、清水港は私たちの予想を超える熱気で溢れかえっていたのです。

「ちきゅう」は日米が中心となって世界各国の協力の下で進められている統合国際深海掘削計画 (IODP) の主力船です。その外見的特徴は、なんといっても船の中心部に高くそびえる檣。掘削のためのドリルを深海底まで送り込むその檣は、高さが船底から130メートルもあり、船の長さ (210メートル) に対して絶妙なバランス感を醸し出しています。この「ちきゅう」の中

をひとめ見ようと、親子連れからカップル、爺様姿までさまざまな人たちが、今や遅しと順番待ちをしているのです。

ふだんはどちらかといえば「見せる側」に回ることの多い私たちにとっては、これは貴重な体験でした。目に前に異様な威圧感をもって迫る「ちきゅう」の圧倒的な存在感は、私たちも含め、その場に集まった人たちに不思議な連帯感を与えていました。私たちが人間が、こんなすごい装置を作れるんだという、シンプルな感動だったのだと思います。1時間ほどの入場待ちの後にようやく入れた「ちきゅう」の中は、決められたルートに沿って1時間弱案内していただいただけなのですが、もう大興奮。ひとつひとつが新鮮で、その場で相手をしていただいたスタッフの皆さんに、ぜひ今後もがんばって下さい！期待しています！と熱い応援を送るのでした。

ふと振り返ってみると、幸運にも天文分野にも「ちきゅう」と同じように人類の智慧と技術を結集させた巨大な観測装置があります。国立天文台ハワイ観測所のすばる望遠鏡しかり、南米チリのアタカマ砂漠に建築中のALMAしかり…。



「ちきゅう」の甲板の上にて。とっても寒かったです。

10年スケールでは、遠くない将来に30メートル望遠鏡 (TMT) も完成するでしょう。これらの装置は、残念ながら港に寄ったりすることはできないのですが、それらの装置のある場所に人を送り込む工夫は出来るはず。やはり、実物を目の前にする感動は、本やテレビなどの二次的情報で得ることはできません。昨年の皆既日食も実物の圧倒的魅力という意味では同じ構造をしていると思いますが、本物を見に行く大事さ、そしてその魅力を提案する必要性を強く感じた清水港でのひとときでした。今年は天プラ主催のツアーでも組もうかな？